

「青春一回帰」

AKS 母校愛のリレー

AKS41リーダー

高41回 伊東 昌恒



私たち「team AKS41」は、『母校愛のリレー』を、4月20日（土）、母校松本県ヶ丘高等学校大体育館に於いて開催致しました。本年度の記念講演は、「闘う・支える」オリンピックで活躍した県陵OB・OG」と題して、スケルトン競技の元選手で、県陵卒業生唯一のオリンピックアン山英子41回卒。対談相手に、平



左から 対談中の青木氏(38回)、中山(41回)、MC大岩氏

昌五輪にナショナルチームに帯同した、相澤病院スポーツリハ科長青木啓成さん38回卒。フリーアナウンサーの大岩堅一さんにMCをお願いし、充実した内容でお送り致しました。

グローバルに、第一線で活躍するプロフェッショナルの話に、大岩さんの軽妙なトークが相まって、熱い講演会となりました。一流の先輩たちの言葉は、きつと後輩たちの心に響き、これからの生きる糧となった事でしょう。

この記念事業の実施にあたり、様々なご指導ご協力を頂きました、学校の皆様、同窓会本部の皆様、諸先輩方には心より御礼申し上げます。

愛のリレーの活動を始めるにあたり、前年の先輩に残して頂いた趣意書を元に募金額を設定し同窓生に送付したところ、「寄付と言うが、いったいこの莫

大な額をどこに何の為に使うのだ？」と、様々な厳しい意見が実行委員会に届けられたのでした。もう、今までのやり方では行き詰る時代だと実感した私達は、会議や作業の場所も、同窓生の経営する会社の一室を借りたり、公民館を利用したり、とにかく節約に努めました。

送付した案内も実家で止まり同窓生の手元に届いていない事態も多発。電話も使用しましたが、何せ特殊詐欺が猛威を振るうご時勢、塩対応にさらされ心が折れる場面も有りました。

私たち実行委員は様々な厳しい現実にも晒され続けました。それでも、実行委員会のメンバーは協力し続けてくれました。

忌憚ない意見をぶつけてくれた仲間たち。一人、また一人と増えていったLINEグループのメンバー。当日参加してくれた同級生。運営には参加出来ないからと離れた場所から寄付に協力してくれた友人達。仕事に家庭に忙しい中、実行委員会に参加してくれた同窓生たち。

皆、本当にありがとうございます！

AKSは、Agatagaoka Koukou Sotsugyou の略。この繋がりこそが「team AKS41」の名前に込められた思いでした。

第41回卒業生みんな、最高のチームをありがとう！

卒業五十周年記念によせて

「県陵倶楽部20」会長

高20回 米窪 英信



平成30年夏月。県陵という言の葉がヒマラヤ杉の立ち並ぶ母校の門に私達を引き寄せました。



小松武平先生の碑の前で記念撮影。松本勤福センターにて記念式典を開催いたしました。

県陵同窓会副会長、丸山礼子様のご臨席を得まして、光栄でありました。

「県陵倶楽部20」が重ねた80回の四季は、季節感の希薄になつてしまつた一般のクラブとは異なつた、すばらしい起伏・抑揚に富んだ80回ではなかつたかと思ひます。

司会は大蔵 章男君、佐藤 兼平君の絶妙な間の手によつて進行。



エレキギター・ドラムの演奏(加山雄三の曲)は恰も大輪の花の様。スポーツはクラスマッチ形式で進行いたしました。

円陣を組み「覇権の剣」がひびいてくると、胸がじいんとしてきました。

記念式典は関係者が相集つて率直に祝い合う絶好の機会でありました。松本県ヶ丘高校の長い歴史をたどりながら、それぞれの思い出を分かち合えたのではなかつたかと思ひます。関係各位に感謝いたします。

From Matsumoto with Love

式典後、記念誌の編集、念願の一書が刊行のはこびとなりました。同期生で元文学部部長、齒学博士、太田信夫君の寄稿文です。

50年ぶりに「やあー」とか「よおー」とか言いながら集いし君達、さぞかし良き青春、良き高校生活を送つたことであらう。過ぎ去りし日々と残された少ない日々乾杯。

